



The 22nd Annual Meeting of
The Japanese Society for Breastfeeding Research

第22回

日本母乳哺育学会学術集会

プログラム・抄録集



会期 2007年 9月29日(土)・30日(日)

会場 **アクトシティ浜松**

〒430-7790 静岡県浜松市中区板屋町111-1 TEL.053-451-1111

会長 **石井廣重** 石井第一産科婦人科クリニック 院長



ご 挨拶

第22回 日本母乳哺育学会学術集会
会 長 石 井 廣 重

第22回日本母乳哺育学会は9月29日(土)、30日(日)に静岡県浜松市で開催されます。90%以上のお母さんが母乳育児を希望しているのに、40%しかできていないこの現実を振り返り、また WHO やユニセフがなぜこれほどまでに母乳育児を奨励しているのかを真筆に考え直したいと思います。当たり前のように母乳育児が実践されていた日本が人工乳の嵐にさらされたのはたった50年前からです。地域によっては母乳率が10～20%にも減少しましたし、もっと影響の大きいのは一般のお母さんのみならず、医療者までが人工乳を何の抵抗もなく赤ちゃんに与えていることです。

わが国には古くから母乳を薦める空気があり、その研究者グループは個々に研究を積み重ねてきました。この学会はそういった全国の臨床家、研究家が集う唯一の集会です。立場や考え方、職種は違えど目的は同じです。大いに話し合っていたきたいと思います。

招聴講演には和歌山大学名誉教授山本宏先生の「母乳と生命」、特別講演には現在話題の小松秀樹先生の「医療崩壊を防ぐために」、教育講演は早稲田大学の山内兄人先生に「脳と母性行動；ラットの実験から」をお願いいたしました。

『シンポジウム1』は「こんなにすばらしい母乳育児」と称して聖マリア病院の橋本武夫先生、瀬尾智子先生、山田恒世先生、竹内キク先生をお願いいたしました。母乳育児のよさと誤解、歴史的な背景を皆様で話し合ひましょう。このシンポジウムは市民フォーラムとして無料で一般に公開されます。

『シンポジウム2』はABMの「母乳で育てられている健康な正期産新生児の補足のための病院内での診療指針」の中で、「補足は人工乳」と述べていることに対するシンポジウムです。日本のような少なくとも数日間は入院する国において補足はどうしたらよいのかを話し合うために、昭和の水野克己先生、東北大の堺武男先生、そしてBFHの代表として佐世保の井上哲郎先生、鹿児島の高久浩太先生をシンポジストに迎えました。

日曜日の午前中の一般演題は開業助産師さんから大学の研究者、乳業の研究者まで幅広く演題をいただきました。興味深い発表と話し合いがもたれると期待されます。会場を2会場とし、十分なディスカッションを可能にいたしました。

さらに3年前からはじめた母乳哺育学会主催勉強会の今年のテーマは「母乳育児と低血糖」です。臨床上最も皆様が困っている問題のひとつだと思います。今回は川口市立医療センター新生児集中治療科 奥 起久子先生にコーディネーターをお願いいたしました。西田俊彦先生、網塚貴介先生、早坂由美子先生をお迎えし、レベルの高い、そして臨床に直接役だつ話し合いがもてると確信しております。

第22回 日本母乳哺育学会学術集会のご案内

1. 会 長：石井 廣重（石井第一産科婦人科クリニック院長）
2. 会 期：平成19年（2007年）9月29日^① 13：00～21：00
30日^② 9：00～16：00
3. 会 場：アクトシティ浜松 中ホール（9月29日）
 コンgresセンター 41・43～44会議室（9月30日）
 〒430-7790 浜松市中区板屋町111-1
 TEL 053-451-1112 FAX 053-451-1123
4. 理事会：9月29日^① 12：00～12：45
 オークラアクトシティホテル浜松 3階 『桜の間』
 〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2
 TEL 053-459-0111 FAX 053-458-3374
5. 勉強会：日本母乳哺育学会主催「第三回母乳育児勉強会」
 9月29日^① 9：30～11：45
 アクトシティ浜松『コンgresセンター31会議室』
6. 総 会：9月29日^① 18：00～18：30
 アクトシティ浜松 『中ホール』
7. 懇親会：9月29日^① 19：00～21：00
 オークラアクトシティホテル浜松 4階 『平安の間』
8. 事務局：〒434-0042 浜松市浜北区小松4498-5
 石井第一産科婦人科クリニック 内
 担当：山田恒世、鈴木久実
 TEL 053-586-6166 FAX 053-586-6612
 E-mail：baby-friendly@joy.ocn.ne.jp

お 知 ら せ

1. 開場

1) 9月29日(土) 第一日目の開場は12時30分、開会は13時です。

最初に理事長挨拶があります。

2) 9月30日(日) 第二日目の開場は8時45分です。

2. 受付

1) 9月29日(土)は12時30分より18時まで、9月30日(日)は、8時45分より14時まで受付にて行います。

2) 事前登録の方には、ネームカードとプログラム・抄録集をお送りしてあります。名前を記入し、当日必ずお持ち下さい。お忘れの方は事前受付までお申し出下さい。当日ネームカードホルダーを用意してあります。

3) 当日学術集会参加費は、学術参加費7,000円(非会員8,000円)受付でお納めください。ネームカードとプログラム・抄録集をお渡しいたします。領収証が必要な方はお申し出下さい。

4) 懇親会の当日受付は、7,000円です。受付でお申込みください。

5) 新規入会および年会費(5,000円)は学会事務局でお受けいたします。

6) 抄録集を余分に必要な方は、残部があれば1部1,500円でお分けしますので受付までお申し出下さい。

3. 会場について

1) 9月29日(土)の会場は、アクトシティ浜松 中ホールです。JR 浜松駅東隣りにあります。駅北口の地下道から続いています。

2) 9月30日(日)は、アクトシティ浜松 コンgressセンター41・43～44会議室です。

3) いずれの会場内も禁煙です。喫煙は会場外でお願いします。また、1日目の中ホールは飲食できませんのでお協力をお願いします。

4) 会場内での携帯電話のご使用はご遠慮下さい。

4. 写真撮影、録画、録音の禁止

講演、一般演題ともに、演者の許可なく演者の写真撮影、講演内容の録音、録画、及びスライドの撮影は、固くお断りします。

5. お弁当を申込まれた方は、9月29日(土)は、コンgressセンター31会議室で、30日(日)は、コンgressセンター43・44会議室にてお召し上がり下さい。

6. 展示コーナーは、9月30日(日)コンgressセンター4階ホールおよび43・44会議室をご利用下さい。

7. 懇親会のご案内

1) 日時：9月29日(土)19：00～21：00

2) 開場：オークラアクトシティホテル浜松 4階 『平安の間』

浜松まつりの名物『激練り』と「マグロ解体ショー」で燃える浜松の夜をお楽しみ下さい。

市民公開フォーラム

9月29日(土) アクトシティ浜松「中ホール」

15:30～18:00

シンポジウム1

「こんなにすばらしい母乳育児」

座長：日本赤十字九州国際看護大学 教授 吉永 宗義
Ami 助産院 近藤 亜美

1. こんなにすばらしい母乳育児 ～ Hag は百薬の長なり

橋本 武夫 聖マリア病院 母子総合医療センター

2. 母乳育児の母子への利点

瀬尾 智子 小児科医、BCLC

3. 母乳育児にはこんな誤解が？

山田 恒世 石井第一産科婦人科クリニック 助産師長

4. 母乳育児；今昔物語り

竹内 キク みどり保育園 助産師

参加費：無料

対象者：どなたでもお子さんとご入場できます。

プレイルームはありません。

お子さんがむずがったり、人に迷惑になるようでしたら
会場の外で静まるまでお待ち下さい。

ホール内は飲食禁止です。

主 催：日本母乳哺育学会

座長、演者の方へのお願い

●座長の方へ

セッション開始15分前までに「次座長席」に着席してください。
担当セッション開始時間は、時間厳守にてお願いいたします。

●演者の方へ

1. 口演発表のご案内

1) 特別・招聘・教育講演・シンポジウム・会長講演について、口演時間は質疑応答を含み以下です。

特別・招聘・教育講演 …… 50分

会長講演 …………… 30分

シンポジウム …………… 2時間30分(座長の指示に従ってください)

2) 一般演題の方へ

- ・発表時間は、9分(発表6分、質疑応答3分)です。
- ・パワーポイントデータは10枚以内でお願いします。
- ・今回はPC(Windows パワーポイント2002または2003)による発表のみとなります。
- ・セッション開始15分前までに「次演者席」に着席しててください。
- ・使用機材は、液晶プロジェクターのみ(単写)です。
詳細については「PC 発表のご案内」をよくお読みください。

2. PC 発表のご案内

1) PC 発表データについて

- ・スライド原稿は9月20日(木) 18時までにE-mailにて、第22回日本母乳哺育学会学術集會事務局までおくってください。必ず件名に『スライド原稿』と記入してください。
E-mail : baby-friendly@joy.ocn.ne.jp
- ・学会当日、発表データは必ずCD-RかUSBメモリースティックに保存してお持ちください。(CD-RW, MO, FD, ZIPなどは一切受け付けできません)
- ・CD-Rのフォーマットは、ハイブリッドやIS09660に設定して下さい。パケットライトなど特殊な機能はファイルが開かない原因になりますので使用しないで下さい。また、ご自身のPC以外でも文字化け等がなく、データを読み込めるかどうかあらかじめご確認下さい。
- ・保存ファイル名は学会抄録号掲載の「演題番号」と「氏名」を入力して下さい。
※(例)15山本太郎 シンポジウム1 山本花子 教育講演 山本次郎 など

- フォントは特殊なものでなく、PowerPoint に設定されている標準的なフォントをご使用下さい。

〔推奨フォント／日本語の場合〕

MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝

〔推奨フォント／英語の場合〕

Century、Century Gothic

- アニメーション、動画は不可です。
- 学会当日に設置される機材のスペック

〔パソコンの OS〕

Windows2000、XP。(Vista は使用できません。)

(Windows パワーポイント 2002、2003 のいずれかで作成下さい。)

〔プロジェクター解像度〕

中ホール・43～44 会議室：XGA、SXGA 対応

41 会議室：UXGA 対応

- 学会当日は演者自身で演台上のマウスおよびキーボードにて操作していただきます。

2) PC データの確認、試写時間について

【第1日 9月29日㊦発表者の方】

発表当日 12：30～発表セッション開始の1時間前までに確認をお願いします。

【第2日 9月30日㊧発表者の方】

発表当日 9：00～発表セッション開始の1時間前までに確認を済ませて下さい。

※9月30日㊧9：00～9：45セッションで発表される方は、原則として前日(29日)に確認をして下さい。

3) PC データの確認について

- PC データの確認は9月29日㊦は中ホール入り口「PC 受付コーナー」にて、9月30日㊧はコンgresセンター4階ロビーの「PC 受付コーナー」にて行います。必ず保存した発表データをお持ちになって下さい。
- データ受付後の発表データの修正は一切できませんので、ご了承下さい。

交通アクセス



	中ホール	コンgresセンター 31会議室	オークラ ホテル
9:30		9:30~11:45 勉強会 低血糖について 座長 奥起久子先生 小泉恵子先生 演者 西田俊彦先生 網塚貴介先生 早坂由美子先生	
10:00			
11:00			
12:00			〈桜の間〉 12:00~12:45 理事会
13:00	13:00~13:05 開会の辞 石井廣重先生 13:05~13:15 理事長挨拶 牛島廣治先生 13:15~13:45 会長講演 座長 根津八紘先生 演者 石井廣重先生		
14:00	13:45~14:35 招聘講演 母乳と生命 座長 小池道夫先生 演者 山本 宏先生		
15:00	14:40~15:30 特別講演 医療を崩壊させないために 座長 寺尾俊彦先生 演者 小松秀樹先生		
16:00	15:30~18:00 市民公開フォーラム:シンポジウム1 こんなにすばらしい母乳育児 座長 吉永宗義先生 近藤亜美先生 基調講演 演者 橋本武夫先生 母乳育児の利点 演者 瀬尾智子先生 母乳育児中の誤解 演者 山田恒世先生 母乳育児 今昔物語 演者 竹内キク先生		
17:00			
18:00	18:00~18:30 総 会		
19:00			〈平安の間〉 19:00~21:00 懇親会
20:00			
21:00			

コンgresセンター

41会議室

43・44会議室

9:00	9:00~9:45 一般演題Ⅰ (01~04) 座長 犬飼和久先生	
10:00	9:45~10:30 一般演題Ⅱ (05~09) 座長 志村浩二先生	9:45~10:30 一般演題Ⅳ (14~18) 座長 白井眞美先生
11:00	10:30~11:15 一般演題Ⅲ (10~13) 座長 赤松 洋先生	10:30~11:15 一般演題Ⅴ (19~23) 座長 中川佑一先生
12:00	11:20~12:10 教育講演 脳と母性行動：ラットの実験から 座長 石井廣重先生 演者 山内兄人先生	
		12:10~13:15 <p style="text-align: center;">昼 食</p>
13:00		
14:00	13:15~15:45 シンポジウム2 母乳育児早期の補足について 座長 関 和男先生 久保田君枝先生 ABMによる人工乳補足 演者 水野克美先生 糖水の補足 演者 堺 武男先生 人工乳か糖水か 演者 井上哲郎先生 人工乳補足の現状 演者 久米浩太先生	
15:00		
16:00	15:50~16:00 閉会の辞 石井廣重先生 次回会長挨拶 山内芳忠先生	

第22回母乳哺育学会学術集会プログラム

第1日目：9月29日(土) 「中ホール」

13：00～13：05 開会の辞 石井 廣重

13：05～13：15 理事長挨拶 牛島 廣治 東京大学大学院 教授

13：15～13：45 会長講演 座長：諏訪マタニティークリニック 理事長 根津 八紘

「こんなにできるよ、母乳育児」

○石井 廣重 石井第一産科婦人科クリニック 院長

13：45～14：35 招聘講演 座長：和歌山県立医科大学小児科 名誉教授 小池 道夫

「母乳と生命」

○山本 宏 和歌山県立医科大学 名誉教授

14：40～15：30 特別講演 座長：浜松医科大学学長・日本産婦人科医会 会長 寺尾 俊彦

「医療を崩壊させないために」

○小松 秀樹 虎ノ門病院泌尿器科 部長

15：30～18：00 市民公開フォーラム：シンポジウム1

「こんなにすばらしい母乳育児」

座長：日本赤十字九州国際看護大学 教授 吉永 宗義
Ami 助産院 近藤 亜美

01 基調講演：こんなにすばらしい母乳育児～Hagは百薬の長なり

○橋本 武夫 聖マリア病院 母子総合医療センター

02 母乳育児の母子へのメリット

○瀬尾 智子 小児科医、IBCLC

03 すばらしい母乳育児、しかし、多くの誤解が…

○山田 恒世 石井第一産科婦人科クリニック 助産師

04 母乳育児；今昔物語り

○竹内 キク みどり保育園 助産師

18:00～18:30 総会

19:00～21:00 懇親会 オークラアクトシティホテル浜松 4階『平安の間』

第2日目：9月30日回 「コンgresセンター41会議室」

9:00～9:45 一般演題Ⅰ

座長：いぬかい小児科 犬飼 和久

01 乳頭痛改善におけるケアの検討ーラノリン製剤とワルツ水の効果の比較ー

○橋口恵子 三菱京都病院 2階病棟

02 乳腺炎の起炎菌

○渡辺 貴香、市瀬 陽子、小柳由布子、向井 恵美、浜 正子、根津 八紘
医療法人登誠会 諏訪マタニティークリニック

03 直接授乳とびん哺乳における吸啜パターンの経時的变化

○滝 元宏、西田 嘉子、水野 克己、水野 紀子、板橋家頭夫
昭和大学医学部 小児科学教室

04 ラオス人民民主共和国における母乳栄養の実態

～ラオス国と日本のコホート調査の比較～

○鋤柄小百合、北里エリカ、前川 貴伸、堀越 裕歩、洲鎌 盛一、高山ジョーン一郎
国立成育医療センター 総合診療部

9:45～10:30 一般演題Ⅱ

座長：元 静岡県立こども病院小児科部長 志村 浩二

05 昭和大学 Breastfeeding Research Center の活動内容
第3報：研究室参加後の経過

○吉澤 舞、西田 嘉子、滝 元宏、水野 紀子、水野 克己、板橋家頭夫
昭和大学医学部 小児科

06 1ヶ月健診までに母乳育児継続を阻害する因子の調査

○村上 早苗(助産師)、千葉佳子
坂総合病院 4階産科病棟

07 母乳育児支援のあり方を考える

○近藤 亜美 Ami 助産院

招聘講演

特別講演

会長講演

教育講演

母乳と生命

○山本 宏

和歌山県立医科大学 名誉教授

生きることの本質は環境適応にあります。環境のリズムとの共鳴にあるのです。ここに生きることの喜びと、充実感があるのです。

ところで生きることの最重要要素は食べることです。食べることの目的は栄養であると現在では考えられているようですが、そうではありません。栄養摂取は単なる結果でしかないのです。本当の目的は食材を介しての自然との共鳴にあるのです。ここに食べることの喜びがあるのです。これが本来の食事であります。栄養が目的となれば食べる行為は飼育となります。これでは生の量的肥大化はあっても、食べる喜びはありません。

現在はいつの間にか、食事が飼育となっているのです。これが生活習慣病となってあらわれているのです。

では一体、食事の典型はなんでありましょうか。それはいうまでもなく母乳育児です。母乳こそ母のリズムを完全に宿した食材であります。だから母乳育児のよって母子は完全な共鳴状態に入るのです。この共鳴によって母子は互いに命として相手の生の芯に宿することができます。すなわち単なる生理的な生が生きるに価する生命へと質的転換をとげるのです。これがQOLの本来の姿です。生活が全般的に飼育化している現代人は生理的な量的生そのままに置かれて命を喪失してしまっているのです。生きる意味、生甲斐喪失であります。ここに現代の不健全、不安定の原因があります。これを克服する方法は、原点としての母乳育児の意味を再確認することです。

成人も同様の状態に置かれているのです。食材は限りなく配合飼料と化しているのです。そこには生きたリズムは含まれていません。成人にとっての母乳は『旬のもの』です。これによって自然と完全な共鳴状態に入るのです。

『目には青葉 山ほととぎす 初鰹』の旬は正にこのことを表現したものです。

医療を崩壊させないために

○小松秀樹

虎の門病院泌尿器科 部長

医療について患者と医師の間に大きな認識のずれがある。患者は、現代医学は万能であり、あらゆる病気はたちどころに発見され、適切な治療を行えば人が死ぬことはない、過誤は費用（人員配置）やシステムの問題ではなく、善悪の問題だ、と思っている。これに対し、医師は医療に限界があるだけでなく、危険である、また、病院が、常に最良の医療が施せる状況にはないことを知っている。さらに、同じ医療を行っても、結果は単一にならず分散するというのが医師の常識である。

過去には、医療側に問題があった。過誤をあってはならないものとしたため、これを組織だって正当に取り扱ってこなかった。「隠蔽し謝らない」と非難されるような状況があった。1999年の「人は誰でも間違える」の出版後、過誤があることを前提に対応がとられるようになりつつある。

現代の日本人は、しばしば、死をあってはならないことと考え、医療の不確実性を受け入れようとしない。患者は不安のために医療を攻撃し、これをメディアと司法が支える。このため、軋轢のため医療現場はとげとげしいものになった。医師は勤労意欲を失い病院から離れはじめた。紛争の多い救急医療や周産期医療から医療が崩壊しはじめた。

崩壊を防ぐためにどうすべきか。医療についての考え方の齟齬が大きいため、具体的対策を考える前に、現在の医療の問題は何なのか、危機を回避するための対策はどのような理念に基づくべきなのかについて、議論しなければならない。メディアの注視する中で問題を提起し、論点を整理し、理念の議論を詰めるべきである。具体的対策の根幹は、専門の医療事故調査機関、公平な補償制度、安全のための行政処分制度である。国家的事業として患者と医療側の相互不信を取り除く努力をしないと取り返しのつかないことになる。事態は急を要する。

こんなにできるよ、母乳育児

○石井廣重

石井第一産科婦人科クリニック 院長

当院が開院してこの11月で満20年となります。開院前からクリニックの基本スタンスを「自然出産」と「母乳育児」に絞り、設計の段階から助産師長らと相談してハード、ソフト両面から作り上げてきました。当たり前の母乳育児をするには、当たり前のことですが心身ともに負担のなるべくかからない、傷つかないお産が必須です。お産にしても母乳にしても多くの先達が研究し、試行錯誤をしていましたが、この自然な行為をなぜ個人の技量に左右されなくてはできないのか、なぜ「何々式」などと特別な方法が必要なのか、「もっと自然な方法があるはず」というところからの出発でした。しかし、まだ「WHOの10か条」もない時代でした。あれこれしているうちにWHO/ユニセフが「イノチェンティ宣言」「10か条」「赤ちゃんにやさしい病院」を提唱し、またお産については「59か条」が示されました。これらは当院が試行錯誤をしていた内容とほとんど変わらず、自信を深めました。そのおかげで1994年に全国で始めて個人産科施設の「赤ちゃんにやさしい病院」と認定されました。

当院は2人の産科医と数人のパートの小児科医の診療所ですから、もちろん扱うのは「ローリスク」の妊婦さんです。年間500から600人のお産を手がけ、帝王切開は常に5～7%、会陰切開は5%、母乳率は1か月健診時で98～99%です。2005年には530人の赤ちゃんにたいし1か月までに一滴でも人工乳を与えた子は7人しかいません。厚生労働省の報告では90%以上のお母さんが母乳育児を希望しているのに、実際にできているのは40%そこそこといわれています。人工乳が必要な場合のあることは誰にでも理解できるでしょう。しかし、母乳が人工乳とは代われない存在であることを知り、最善を尽くせばここまでできるのだということを知っていただきたいと思います。医療者が、家族がそしてお母さん本人が何をどうすれば楽しく母乳育児ができるのかを20年のデータを示し考えたいと思います。

脳と母性行動 － ラットの実験から －

○山内兄人

早稲田大学人間科学学術院 教授

動物の母親が母性行動をするかしないかは出生直後の子供にとって死活に関わるものである。哺乳類の原点にたつラットでは、出産直後から母性行動が生じるようになり、子供が離乳する20日ごろに低下する。行動は単一なものではなく、巣からはみ出た子ラットをくわえ戻すリトリビング、外陰部をなめ排尿、排便を促すリッキング、乳首に吸い付きやすいよう腹部に空間をつくるクラウチングなどで、脳の中にそれらを制御する神経回路が存在する。母性行動は動物が母乳を与えることを前提とした行動である。

未経産ラットは新生児をあたえても母性行動をすることは無いが、子供を与え続けるとするようになる(人工的母性行動誘起)。また、雄ラットでも同様で新生児を与え続ければ母性行動をするようになる。しかし、雌雄差があり、未経産ラットのほうが母性行動を早く始める。未経産卵巣除去ラットにエストロゲン、植物エストロゲン、アンドロゲンを投与すると、エストロゲンを投与した場合のみ母性行動の開始が早まった。人工的母性行動誘起においてもエストロゲンは脳に作用し、行動開始を促進するものと考えられる。しかし、必須のものではないことは、雄ラットでも母性行動をすることから明らかである。

母性行動パターンは幼若期のラットにも見られる。20日齢の雌雄ラットに新生児を与えると、その場でリトリビングやリッキングをする個体が見られる。その割合は雌より雄のほうが多い。しかし、生後30日、40日になると、雌雄ともそれらの行動がみられなくなる。低下の原因は脳の発達に伴うものであろうと推測できるが、性差形成に関係する可能性もある。ラット脳における母性行動制御の神経回路は明らかになっていないが、セロトニン神経が制御の一部に関与していることがわかってきた。今回の講演においては、我々のラット脳の研究結果を中心に、母性行動と母性について考えてみたい。

一般演題 I ~ V

01 乳頭痛改善におけるケアの検討

— ラノリン製剤とワルツ水の効果の比較 —

○橋口恵子

三菱京都病院 2階病棟

【目的】

母乳栄養が推進されているが、乳頭痛により母乳栄養に抵抗を感じ、効果的に母乳栄養を行うことが困難となることがある。当院では乳頭痛に対してワルツ水を用いているが悪化していることが多く効果があるのか疑問に感じ、ラノリン製剤との比較調査を行った。

【方法】

乳頭痛が生じた褥婦を対象に疼痛スケールを作成・使用し薬剤使用前後の改善状況の判定と使用者へのアンケート。

【結果】

	改善あり	変化なし	疼痛増強
ワルツ水	35%	57%	8%
ラノリン製剤	77%	23%	0%

【考察】

乳頭の形状・状態は個人差がある為、母乳栄養開始時から私達は授乳方法を指導・助言している。しかし、母児が慣れないうちに乳頭の損傷・疼痛が出現してしまう場合があり、疼痛を増強させず母乳栄養に取り組めるように援助していく事が必要である。乳頭損傷が生じてしまった場合に疼痛緩和製品の使用が必要となり、その中で疼痛改善効果の高いラノリン製剤を使用していくことが母乳栄養継続につながると考える。また乳頭痛改善が見られなかった患者については、退院まで授乳方法の指導・助言を頻回に行い、乳頭自己管理ができるように援助していく事が重要である。退院後も母乳外来でフォローを行う事で満足度が得られるような母乳栄養を確立できるように援助していく必要がある。

【結論】

1. ラノリン製剤の方がワルツ水よりも、乳頭痛改善効果がある。
2. 乳頭痛が変わらない、もしくは増強した患者もいたが頻回に授乳方法の指導・助言や母乳外来フォローにより母乳栄養を継続する事ができた。

02 乳腺炎の起炎菌

○渡辺貴香、市瀬陽子、小柳由布子、向井恵美、浜 正子、根津八紘

医療法人登誠会 諏訪マタニティークリニック

乳腺炎の起炎菌は、化膿菌の代表である黄色ブドウ状球菌 (*sta. aureus*) がほとんどであると考えられ、事実当施設の乳房外来を訪れた乳腺炎の患者からはそれが1/3以上を占めていた (S57.10～S59.9)。そのため、ブロードスペクトラムのセファロスポリン系の薬剤を投与、ほとんどが3日間程の投与で軽快していた。しかし、最近3日間の投与では効果無く、細菌培養結果をみると、MRSA や GBS が見られるケースを散見するようになった。

そのため、乳腺炎や単なるうつ乳の乳汁を細菌培養、治療経過中もフォローしてみることにした。その結果、単純な黄色ブドウ状球菌はほとんど見られず、菌の種類も20数年前とは全く変わってしまっていた。MRSA に対しては、バクトラバンを使わず、乳汁分泌抑制剤の投与と冷罨法で対応、膿瘍形成例には切開排膿で対応している。しかし、GBS に対しては、セファロスポリン系やペニシリン系でも効果の見られないケースもあり、今までの乳腺炎への対応では対応し切れないケースも出現している。今回はその現状を報告する。

03 直接授乳とびん哺乳における吸啜パターンの経時的变化

○滝 元宏、西田嘉子、水野克己、水野紀子、板橋家頭夫

昭和大学医学部 小児科学教室

【目的】

科学的データに基づいて、母乳育児支援を行うことが必要である。今回、我々は直接哺乳時とびん哺乳時の吸啜パターンの経時的变化を比較し、両者の吸啜行動の相違について検討した。

【対象】

生後1、3、6ヶ月の神経学的発達に異常がない正常乳児に対し、直接哺乳・びん哺乳中に検討をおこなった。両群間において臨床的背景に差は認めなかった。

【方法】

吸啜圧測定用のカテーテルを、母親の乳頭または人工乳首に装着し、安定して圧波形を得られるところで固定した。吸啜が2秒以内の間隔で連続しておこり、3回以上連続して起こっている場合を吸啜のバーストと定義し、その部分を検討した。統計には Repeated - measured ANOVA を用いた。

【結果】

吸啜圧は、生後1ヶ月では有意差を認めず、生後3、6ヶ月にてびん哺乳の方が有意に強い圧力であった。吸啜バーストの回数は、生後1、3、6ヶ月いずれも直接哺乳の方が有意に回数は多かった。吸啜バースト持続時間は両者とも時間とともに増加し、生後1、3、6ヶ月いずれもびん哺乳の方が有意に持続時間は長かった。各々のバースト間の吸啜頻度も時間とともに増加し、生後1、3、6ヶ月いずれもびん哺乳の方が有意に回数は多かった。

【考案】

直接哺乳・びん哺乳とも、乳児は成熟するにつれ、1回のバースト間に、より頻回に吸啜することができ、吸啜バースト持続時間も増加することがわかった。しかし、直接哺乳では間隔の短い吸啜バーストを頻回に繰り返すのに対し、びん哺乳では吸啜バースト持続時間が長くなっていた。その原因として、直接哺乳では射乳反射の前後は非栄養的吸啜であるのに対し、びん哺乳では常に栄養的吸啜であるためと推測された。

【結語】

直接哺乳とびん哺乳の吸啜パターンには多くの違いがあり、それは月齢を経ても変わらず、びん哺乳は月齢にかかわらず非生理的であり、安易な使用は避ける必要があると思われた。

04 ラオス人民民主共和国における母乳栄養の実態

～ラオス国と日本のコホート調査の比較～

○鋤柄小百合、北里エリカ、前川貴伸、堀越裕歩、洲鎌盛一、高山ジョニー郎

国立成育医療センター 総合診療部

【はじめ】

当センターでは、ラオス人民民主共和国（以下、ラオス国）の国立母子保健病院において出生児のコホート調査を行っている。コホート調査には乳児の栄養法に関する調査項目も含まれており、ラオス国における母乳栄養の実態を調査することができる。今回、我々は、ラオス国でのコホート調査結果を、当センター出生児を対象とし実施しているコホート調査と比較し、ラオス国における母乳栄養の実態について、その社会文化的背景もふまえて検討したので、報告する。また、二国で実施しているコホート調査を比較し、併せて報告する。

【当院が行っている二ヶ国におけるコホート調査】

1. 日本

対象は、妊娠16週までに当院産科を受診し同意した母親1,757人とその出生児。

2. ラオス人民民主共和国

ラオス国はアジアの一国であり、発展途上国として知られている。当院では、2005年11月に同国の首都ビエンチャンにある国立母子保健病院と友好協定を結び、諸プロジェクトを行っており、その一つとしてコホート調査がある。対象は、同院で出生した出生体重1,800g以上3,400g未満、かつ基礎疾患のない正期産児300人（男女各150人）である。

この二国のコホート調査について、その調査方法や内容を比較して示す。

【ラオス国と日本の母乳栄養の実態】

上記コホート調査により明らかとなった二国の完全母乳栄養率を比較して示す。

生後6ヶ月の時点では、ラオス国では13.3%、日本では53.5%だった。また、ラオス国について、補完食の内容や完全母乳栄養阻害要因などを、文化、社会経済的背景、母子保健体制の現況をふ踏まえて報告、検討、考察する。

【まとめ】

ラオス国と日本におけるコホート調査を用いて、二国の母乳栄養の実態を知ることができた。今後も調査を継続し、世界の母子保健医療の向上の一助となることを目指したい。

日本母乳哺育学会会則

- 第1条 本会は日本母乳哺育学会（The Japanese Society for Breastfeeding Research）とする。
- 第2条 本会は母乳哺育の医学・生物学的研究の発展を促し、会員相互および内外の関連機関との連絡を図ることを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、年1回総会および学術集会を開くほか、随時、研究会、講習会などを開催し、機関誌の発行を行う。
- 第4条 本会の事務局を東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻発達医科学教室内に置く。
- 第5条 本会の目的に賛同し、入会しようとする会員は、本会事務局に所定の会費を納め、住所、氏名、所属、その他必要事項を届け出るものとする。
本会は賛助会員をおく。
- 第6条 本会には次の役員をおく。
- | | |
|-----------|-----|
| 理事長 | 1名 |
| 副理事長 | 1名 |
| 理事 | 若干名 |
| 監事 | 2名 |
| 会長 | 1名 |
| 副会長（次期会長） | 1名 |
| 幹事 | 若干名 |
- 第7条 理事長、副理事長、理事、監事、会長および副会長は理事会の推薦に基づき、総会で選出される。
- 第8条 会長および副会長は理事会に出席し、会長は総会および学術集会を主催する。
- 第9条 監事は会務を監査する。
- 第10条 理事は理事会を組織し、本会の運営に関する事項を処理する。
- 第11条 理事長は本会を代表し、理事会の業務を総括する。
- 第12条 理事は理事長より任命され、会務に従事する。
- 第13条 理事長、理事、監事の任期は3年とするが、重任を妨げない。ただし、会長および副会長の任期は1年とする。
- 第14条 本会は名誉会員を置くことができる。
- 第15条 本会の会計年度は暦年とし、会員は別に定める年会費を納入しなければならない。
- 第16条 この会則は理事会の議を経て、総会において出席者の3分の2以上の賛同を得て、変更することができる。
- 第17条 会則施行についての細則は、理事会の決議を経て別に定める。
- 附則 1 本会則は平成8年9月14日より実施する。なお第4条については平成13年1月1日より実施する。
- 2 3年以上会費未納の場合は退会させることができる。
- 細則 1 本会の会費は年額5,000円とする。ただし、学生は2,000円とする。
- 2 賛助会員の年会費は30,000円とする。

（会則一部改正：平成16年9月26日第19回年次総会）

（会則1部改正：平成17年9月17日第20回年次総会）

第22回 日本母乳哺育学会学術集会プログラム・抄録集

発 行：日本母乳哺育学会

事務局：石井第一産科婦人科クリニック内

担当：山田恒世、鈴木久実

〒434-0042 浜松市浜北区小松4498-5

TEL：053-586-6166

FAX：053-586-6612

E-mail：baby-friendly@joy.ocn.ne.jp

HomePage：http://www7.ocn.ne.jp/~babyf/

制 作：Next COMPANY **Secand** 株式会社 セカンド
熊本県熊本市水前寺4丁目39-11
TEL：096-382-7793